

急激な円高の背景

ポイント① 2016年11月以来の101円台

円の米ドルに対する為替レートは、2月20、21日に昨年4月以来の1米ドル = 112円台まで円安が進んだ後、円高に転じ、3月9日には2016年11月以来となる101円台を一時付けました。円はユーロなどの他の主要通貨や新興国通貨に対しても高くなり、円の全般的な強弱を示す実効為替レートも急上昇しました。

ポイント② リスク回避と米金利低下

円高が急速に進んだ背景には、まず、新型コロナウイルスの感染が欧米諸国にも広がって世界景気の減速懸念から投資家がリスク回避的になり、安全資産とされる円を買う動きが強まったことが挙げられます。

加えて、OPEC（石油輸出国機構）とロシアなどの原油協調減産の枠組みであるOPECプラスが事実上破たんし、原油価格が急落したことも、投資家のリスク回避姿勢を強める要因となったようです。

さらに、米国では景気減速懸念に対応するため、3月3日に緊急利下げが行なわれ、3月17、18日開催のFOMC（米連邦公開市場委員会）でも追加利下げが行なわれるとの見方が強まったことも、円高、米ドル安要因となりました。

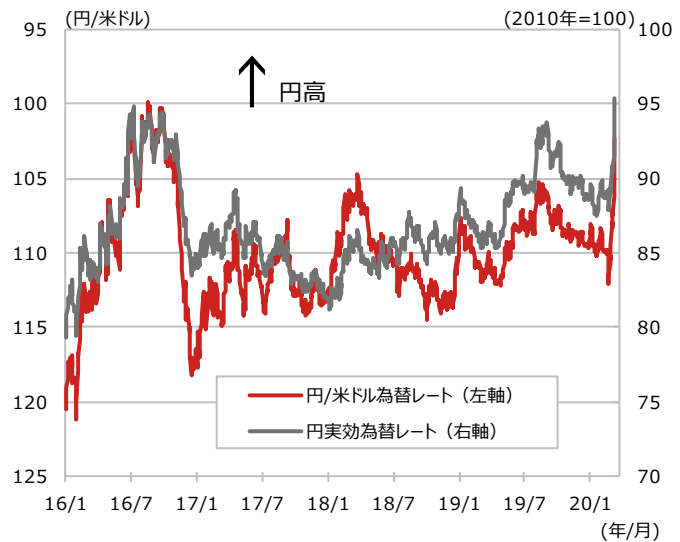
ポイント③ 円の割安感は縮小

米国金利の急低下により日米金利差が大幅に縮小して円高が進んだ分、相対物価水準などから見て大きかった円の割安感もかなり縮小したようです。

世界の金融市場が不安定な中、為替市場の変動も当面大きくなりがちでしょう。しかし、新型コロナウイルスの感染拡大が鈍ったり、治療法が確立するなどして投資家のリスク回避姿勢が弱まれば、円高にもブレーキがかかるものと考えられます。

図1：円/米ドル為替レートと円実効為替レート

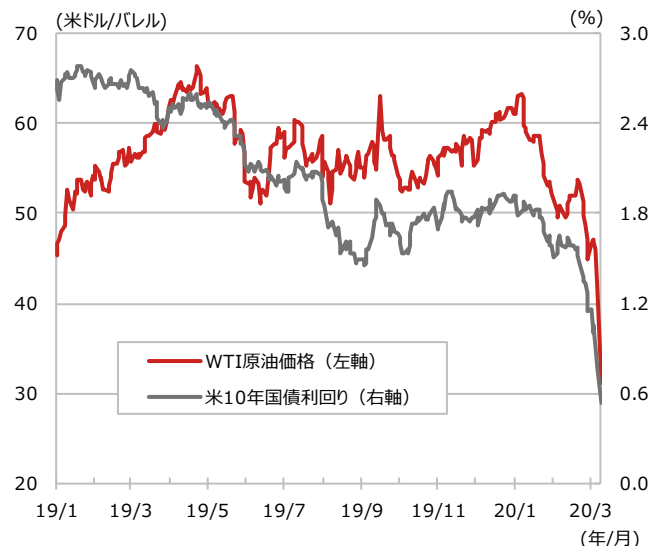
期間：2016年1月1日～2020年3月9日、日次



(出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

図2：原油価格と米国債券利回り

期間：2019年1月1日～2020年3月9日、日次



(出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

重要
イベント

3月12日 ECB（欧州中央銀行）理事会
3月17、18日 FOMC